

日本橋室一仲通りの舗装改良に関する市民参加型計画の実践



H01030

北川 寛和

指導教員

岩倉 成志

1. はじめに

1.1. 本研究の背景・目的

日本橋地区は、センターコア再生ゾーンや緊急整備地域などに指定されており、国際的な商業・観光拠点を形成させるというビジョンを行政が示している。近年、都市再生事業が行われており、新たなランドマークが誕生し再開の波がこの日本橋地区に押し寄せている。その中で、室一仲通りの現状は、魅力的ではない舗装・まちづくりの意識低下など多くの問題を抱えており、日本橋地区の中に取り残されている。

本研究の目的は、室一仲通りの舗装を特定の町会・商店会という枠の中だけで考えるのではなく、行政・企業・各自治会すべてが一つとなって考えることにより、まちづくりの意識が芽生え、舗装に関して市民参加型計画することを目的としている。

1.2. 研究対象地域

日本橋室町一丁目・本町一丁目属している室一仲通り商店街である。江戸から続く老舗が多く存在する。違法駐車・違法看板・不統一な景観など

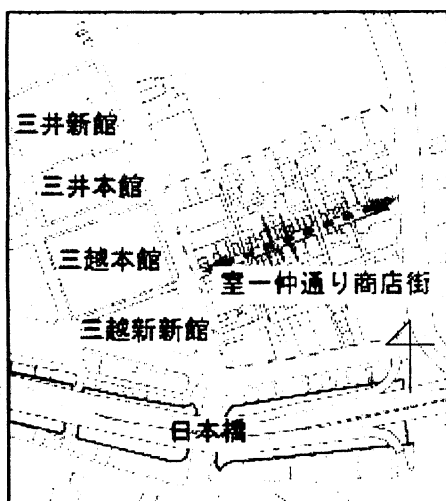


図1 対象地域 (1/500)

多くの問題を抱えている。

1.3. 日本橋学生工房

本研究を行うにあたり所属した日本橋学生工房は、日本橋都市再生検討委員会（委員長：森地茂教授）の提言を受け設立された学生団体である。学生工房は学

生の視点で日本橋周辺地区のまちづくりについて考え調査やボランティア等の地元との交流を通じて、まちづくりに関しての提言を行うことを目的としている。

2. 舗装改良に関する市民参加事例・市民参加の必要性

舗装改良に関する市民参加事例として、三重県伊勢市がある。伊勢市は、市民参加型の都市計画マスタープランをきっかけに、今まで対立関係にあった行政と市民がパートナーシップを確立し、市民参加型まちづくりに転換した。そして市民主体で舗装整備計画をたてた。伊勢市では行政の方針転換が成功の要因だと考えられるが、それよりも市民自体がまちづくりの意識が高かったことが合意形成にいたった要因だと思われる。沖縄県那覇市は、様々な性格を持った組織が一つになりコミュニティ道路を考えた。そして、沖縄らしい空間を創出することができ、地域活性化につながった。ここでの成功のポイントは、既存組織の連携が強いということが要因で合意形成にいたったと考えられる。

3. 市民参加型計画の実践

3.1. 室町・本町整備事業

現在、室町・本町整備事業が行われている。室一仲通りとあじさい通りの電線地中化・歩道拡幅工事・舗装改修工事がH15年9月～H18年12月の間に行なわれる。今回の整備事業は、都市防災機能の向上・安全で快適な道路交通の確保・都市景観の向上を主な目的として行なわれている。

3.2. 中央区道路課とのヒアリング

中央区道路課とのヒアリングを3度行なった。当初、計画案はほぼ決定しており、舗装材まで決まっていた。その中で学生工房はブロックの配列パターンだけを提案してほしいと言われた。これでは地域住民の意見が入っていない。そこで、再度中央区に舗装案についての変更を要望したところ、変更要望を聞き入れることになった。H17年7月までにまちとしての舗装案の合意形成を行なってほしいと言われた。

3.3. まちづくりワークショップ（以下WS）

中央区の舗装案が変更可能であることを住民伝えるため、また舗装案についてまちの方が考えるきっかけとなるようにWSを行なった。WSの流れは表1に示す。WSでは、各種舗装事例・模型による説明・実際の舗装材などを用いて説明を行なった。舗装タイプとして、インターロッキング・石畳・脱色アスファルト・洗い出し平板などを説明した。また舗装部を貼り絵形式にした模型により、この室一仲通りに合う舗装カラーを想像しやすくすることを狙った。そして、実際の舗装材を用意し、いろいろな方法でこのまちの方に舗装に対して興味を持ってもらった。

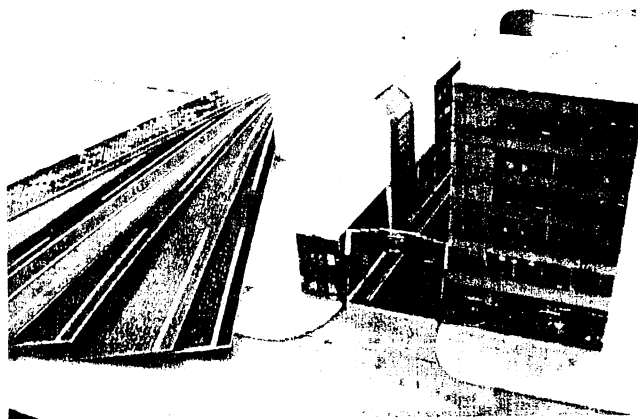


写真1 WSで使用した模型

表1 まちづくりWSの概要

WS名・第1回	室一・本一景観を考える会
日時	2004年10月30日 (14:00~16:00)
WS名 第2回	オープンハウス
日時	2004年11月4・5日 (9:00~21:00)
参加人数	14人(2回合計)
WSのフロー	1. 室一仲通りの現状 2. 中央区の舗装案 3. 各種舗装事例 4. 模型による説明 5. 実際の舗装材による説明 6. 住民の方の意見抽出

3.3. オープンハウス開催

工房を一日中開けて、忙しいまちの方が合間をぬって来ていただけるよう設定した。説明は前回のWSと同じフローで行い、室一の現状・舗装についての意見抽出を行なった。2回のワークショップで出てきた意見の中で、舗装は石畳にしたいという意見が一番多くでた。

3.4. ヒアリング調査

2回のWSを終えて、室一仲通りの人達に対してまちの動き・住民の方の意識をみるために、仲通りの店舗の方15人にヒアリングを行なった。主な質問事項は、年齢・所属団体・仲通りの現状について・舗装案について・所属団体の動きなどを聞いた。ヒアリングの結果は、表2がまちの人の主な意見である。老舗とチェーン店でまちづくりに対して問題意識が違うことが分かる。

3.5. 地域住民の動き

1月19日に仲通り会が行われ、舗装中心の話し合いが行なわれた。室町町会・本町町会を合わせた会となり参加者は、舗装に強い意識を持ち始め、仲通りだけという線ではなく室町・本町を加えて面的に考えていき、その第一段階として室一仲通りの舗装を考えていこうという意見もでてきた。そして、2月16日に行なわれる仲通り会では、行政である区と近隣企業である日本橋三越本店・三井不動産を呼んで考えていく流れになっている。初めて行政・企業・仲通り会・各自治会・学生工房が一つになってまちづくりについて考え始めている。仲通り会は、室町・本町に市民参加型計画ができるきっかけとなったといえる。

表2 ヒアリング調査結果（老舗・チェーン店）

	老舗	チェーン店
室一仲通りの現状の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・コインパーキングの撤去 ・チェーン店のまちとの関わり ・土日休日の店舗が多い ・違法看板が問題である ・町会体制がしっかりしていない ・町会から脱退する人がいる ・違法駐車が問題である ・コミュニティが破壊されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味がない ・違法駐車 ・土日休日の店舗が多い
舗装案について	<ul style="list-style-type: none"> ・石畳が良い ・安全面を最優先で考えている ・中央区の案はあまりよくない ・舗装事例を見せて欲しい ・各舗装の金額面を知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでもよい ・興味がない ・中央区の案が良い
各自治会の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・仲通り会が舗装について動いている ・一步会で一度舗装が話題に出た ・町会では舗装は話していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に出していないから分からない

4. 結論

これから地域住民を巻き込んでいくには、地域の人たちに、2月16日の仲通り会でまちづくりに対して興味を持たせることが重要である。その方法として、WSで用いた各種舗装事例をさらに増やし・貼り絵形式の模型・各種舗装材で興味を持たせていきたい。また、ヒアリング調査によりチェーン店のまちづくりに対する意識が低いことが分かり、これからをどのように仲通り会に巻き込んでいくのかが、課題になってくる。その中で、舗装材のグレードアップ分を住民が負担しなくてはいけなく、費用の面で、合意形成させることが今後の課題である。